

令和6年度 吉川市立北谷小学校 学校評価(教職員自己評価)

4	高いレベルでできている。(8割以上の達成状況である。)
3	概ね基準に達している。(6割以上8割未満の達成状況である。)
2	基準には達していない。(2割以上6割未満の達成状況である。)
1	ほとんどできていない。(2割未満の達成状況である。)

令和6年12月19日
吉川市立北谷小学校
回答数 教職員26名

評価項目	No.	質問事項	4点評価	結果の振り返り・考察
R6重点(学校独自)	①	50周年記念式典の計画と学習成果発表会で探究型学習の成果を保護者・地域に向け発信し、子供たちの非認知能力(たくましく生きる力)を高める。	3.5	①本校が令和6年度最も重点を置いた「探究型学習の推進及び全ての教育活動における非認知能力の育成」については、教職員から肯定的に評価されました。11月9日の学習成果発表会で、児童が来校された保護者・地域の皆様に、これまで培ってきた学習成果をお見せすることができました。 ②学習成果発表会は国語で習得した説明文の構成等の基礎・基本を活かして発表に臨みました。基礎・基本を学ぶ「習得サイクル」と、それらを活かして課題を解決する「探究サイクル」の両方を組み合わせることで、「生きて働く国語の力」を伸ばすことができました。 ③いじめについて組織的対応をして参りました。不登校児童のさらなる減少は依然として課題です。ケース会議を設け組織的に対応する等、継続して取り組んで参ります。 ④学習規律、生活規律の確保にそれぞれ取り組んでおります。⑬⑭に詳しく記述します。
	②	国語の授業研究の推進による指導法の改善と、国語で習得した基礎・基本を他教科や生活科・総合に活用することで、国語の学力を高め、「生きてはたらく国語の力」を伸ばす。	3.3	
	③	不登校・いじめ等の生徒指導問題に組織的・継続的に対応し、解決につなげる。	3.1	
	④	2分前着席・無言清掃・元氣な挨拶や返事の励行等、学習規律や望ましい生活習慣を身に付ける。	2.7	
組織・運営(市内共通)	①	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	3.4	「組織・運営」の項目のうち、①②③⑤はいずれも比較的良好な評価となりました。 ⑤令和6年度は、小中一貫教育において、夏季休業中に小中合同研修会を開催して9年間を見通した教育の構築に努めたり、小・中の教職員が交互に授業参観をすることで実態把握と共通理解に努め、指導に生かしたりすることができました。令和7年2月5日には、北谷小・吉川小・南中で小中一貫合同研究発表会に臨み、小中の連携を更に深めました。 ④清掃活動に課題が残りました。今後はトイレ清掃など掃除のやり方を校内で一層共通理解を図り、校内の環境美化に努めて参ります。
	②	教職員はPDCAサイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたっている。	3.4	
	③	学校は事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、適切に対応している。	3.3	
	④	学校は清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	2.9	
	⑤	学校は小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	3.5	
保護者(市内共通)の連携	⑥	教職員はPTA活動や学校応援団の活動に積極的に協力している。	3.3	比較的良好な項目も比較的良好な評価となりました。 ⑥⑧PTAや学校応援団との連携では、おやじの会PAPASの皆様による年3回の体験活動(飯ごう炊さん、流しそうめん体験、学校宿泊体験)や、PTAの皆様主催による北谷小フェスティバルが子供たちの豊かな心の育成に大きな役割を果たしました。 ⑦学校だよりや学校ホームページによる情報発信も、今後も継続して行っていきます。
	⑦	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ、Home&Schoolアプリ等を活用し、積極的に情報提供している。	3.7	
	⑧	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	3.4	
学力(市内共通)	⑨	児童は、落ち着いて学習に取り組み、学習内容を理解しようとしている。	2.8	⑨学級担任は、静かな教室環境の中で、児童が落ち着いて学習に取り組めるよう日々努力しています。その一方で、授業中落ち着かない様子をみせる児童も一部あります。そうした子供たちが安心して授業に臨めるよう、今後も組織的に対応して参ります。 ⑩⑪教職員は、国語科の指導方法改善に基づき日々の授業の改善や、ICT機器(クロームブック)を活用して個別最適な学びや協働的な学びの実践に日々努力しています。その姿勢が表れています。 ⑫3.0とやや数値は低いものの、R6は全校で「生きて働く国語の学力」を伸ばすことに注力しました。次年度は、さらなる向上のために国語や算数の基礎的・基本的な学力の定着に一層取り組んで参ります。
	⑩	教職員は学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童児童の実態に基づいた授業改善に努めている。	3.3	
	⑪	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT活用を推進している。	3.5	
	⑫	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたり、児童の学力を高めている。	3.0	
規律ある態度(市内共通)	⑬	児童は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	2.6	⑬⑭が3を下回っています。毎朝の登校指導等で、挨拶運動を推進しています。児童は校内ではよく挨拶するものの、登校指導をしてくださるボランティアの皆様やPTAの皆様からは「あいさつの声小さい子が多い」との指摘をいただいています。「外で挨拶するのは恥ずかしい」という心情があるかもしれないと捉えています。言葉遣いについては、社会全体の言葉の乱れが影響していて、敬語・丁寧語が使えない児童が多いようにも感じます。挨拶運動の推進や言葉遣いの改善を、次年度の課題にしたいと思えます。 ⑮いじめは発見次第管理職に報告、いじめ対策委員会を組織して迅速に対応しており、組織的な対応ができました。今後もこの体制を継続して参ります。 ⑯本校の教職員は、児童の模範となるよう日頃より努めており、そのため数値が高くなっています。これからも、教師自ら手本になる姿勢を徹底して参ります。
	⑭	児童は、生活のきまり・時間を守ることができる。	2.6	
	⑮	児童はいじめなどの行為をすることなく、お互いのよさや努力を認め合って、学校生活を送っている。	3.0	
	⑯	教職員は自ら手本となり、児童に対して規範意識を高める指導を行っている。	3.4	
(市内共通)健康・体力	⑰	児童は、体力向上に向け、保健体育の授業や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	3.2	⑰教科体育の充実、外遊びの奨励に取り組んでいます。持久走記録会では、順位のみを目標にすると全員の意欲を高めることができません。そのため「ライバルは昨日の自分」として自己の記録を上回ることを目標としました。そのため、多くの児童が最後まで全力で走り抜くことができました。 ⑱全校で食育に取り組みました。「食を通して地域を知ろう」をテーマに、なます料理の研究やお米づくりの学習に取り組みました。食育を通して郷土学習を推進することができました。
	⑱	学校は、児童の健康管理および食育に関する意識を高めている。	3.5	
生徒指導(市内共通)教育相談	⑲	学校は、児童の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切に、児童に寄り添った対応をしている。	3.6	⑲よい数値となりました。教職員が児童一人一人を大切に、個に応じた指導を日々行っている証拠と考えます。 ⑳「不登校児童ケース会議」を定期開催し、組織として不登校児童にいかに対応するかを共有し、足並み揃えた指導を行っています。組織的な対応ができたことへの評価と考えます。
	⑳	学校はいじめや不登校をなくすため、生徒指導の充実を図っている。	3.3	